

【成果情報名】 秋ギク「神馬」、「明神」の2度切り栽培における不萌芽防止技術

【要約】 秋ギク「神馬」、「明神」は、親株摘心時にベンジルアミノプリン（BA）2000～4000倍を10a当たり100リットル散布することによって、側枝に腋芽を着生させることができ、2度切り栽培時の不萌芽を防止することができる。

【キーワード】 秋ギク、神馬、腋芽、ベンジルアミノプリン

【担当】 総合農林試験場・作物園芸部・花き科

【連絡先】 電話 0957-26-3330、電子メール arakabu@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】 花き

【分類】 普及

【背景・ねらい】

秋ギク「神馬」、「明神」は、2度切り栽培において不萌芽となることが多く、問題となっている。これは、高温時期に採穂した場合、親株の腋芽が消失していることに起因している。

そこで、この腋芽を消失させない親株管理技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

1. 「神馬」、「明神」は、親株摘心時にベンジルアミノプリン（BA）2000～4000倍を10a当たり100リットル散布することにより、摘心後に伸長してくる側枝の葉腋に腋芽を着生させることができる（表1、表2）。

【成果の活用面・留意点】

1. ベンジルアミノプリン（BA）散布は、腋芽の消失が始まる前の6月下旬以降から開始する。
2. ベンジルアミノプリン（BA）は、日中は避けて夕方、単用散布する。

[具体的データ]

表1 「神馬」に対するBA処理が腋芽着生に及ぼす影響(2004年)

BA濃度	側枝長	葉数	腋芽数	腋芽数/葉数×100
2000倍	12.1cm	9.1枚	7.5本	82.4%
4000倍	11.3	9.3	7.0	75.3
6000倍	10.2	8.7	5.9	67.8
無処理	11.7	9.2	3.0	32.6

注1) 処理 2004年8月5日

注2) 調査 2004年8月25日

表2 「明神」に対するBA処理が腋芽着生に及ぼす影響(2005年)

BA濃度	側枝長	葉数	腋芽数	腋芽数/葉数×100
2000倍	12.9cm	10.9枚	9.1本	83.5%
4000倍	12.7	11.3	9.1	80.5
6000倍	14.3	11.6	8.6	74.1
無処理	15.8	12.0	5.5	45.8

注1) 「明神」：長崎県育成無側枝性「神馬」

注2) 処理 2005年7月28日

注3) 調査 2005年8月18日

[その他]

研究課題名：キクの周年栽培における安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2005年度

研究担当者：出口 浩、諸岡淳司、松尾崇宏